

太陽

編集・発行 / 社会福祉法人 今帰仁村社会福祉協議会

〒905-0411 今帰仁村天底 62 番地 (社会福祉会館内) Tel. 0980-56-4742 Fax. 0980-56-4014

北部地区大会の代表を目指し熱戦 今帰仁村老連パークゴルフ大会



▲プレーを楽しむ選手たち

5月19日(金)、宜野座村かなパークゴルフ場にて、今帰仁村老人クラブ連合会(宮平博旦会長)のパークゴルフ大会が開催され、100名の会員が出場した。

はじめに、宮平会長が「雨が心配されたが、皆さんの日頃の行いのおかげで天気に恵まれた。今日は交流を楽しみましょう」とあいさつ。次に、山崎真弥審判長(諸志区)からルールの説明を受け、各選手は広々としたコースでプレーを楽しんだ。
(2ページに続く)



代表の半数を占める
(湧)きつ台員大健闘

会員相互の交流が目的に掲げられているが、6月28日(水)に同会場で行われる北部地区大会の代表選考会を兼ねた大会となっており、代表を目指す選手たちは、日頃の練習の成果を競い合った。結果は、好プレーを続けた湧川区老人クラブ会員が、代表の半数を占めるなど健闘を見せた。

※地区大会に派遣される上位8名は次のとおり
(敬称略)

- 優勝 山城 潤一(湧)
- 準優勝 知念 孝康(湧)
- 3位 山田 重実(湧)
- 4位 仲宗根 寛(湧)
- 5位 山崎 真弥(諸)
- 6位 與那嶺信子(与)
- 7位 石川 清隆(渡)
- 8位 大城 淳良(天)



▲多くの出場者で大盛況

必要保護世帯の
子育て支援
新中学1年生へ助成

村社協は、去る3月に必要保護世帯の新中学1年生応援事業として、5名の新入学生へ1人当たり5千円を助成した。この事業は、村教育委員会に協力を得て、委員会から対象となる世帯へ事業の案内をしてもらい、支援を希望する世帯から村社協への申請方式で実施された。次回は令和6年3月に実施予定。

誰もが暮らしやすい社会へ
兼小で福祉教育

4月28日(金)と、5月1日(月)に、兼次小学校(上間久仁校長)6年生クラスにて、村社協主催の「福祉教育」が行われた。



▲新垣さんの講話に聞き入る生徒

今年2月に実施された「福祉導入授業」に続く取り組みで、2学年連続の開催となった初日は、「北部自立生活センター希輝々」の新垣正樹代表による講話「障がい者の生活について」に耳を傾け、障がいのある人が述べられた。

受講した生徒からは、「足が不自由でも車を運転できるのはすごい」、「広くて手すりがある多目的トイレの方が利用しやすいと思った」など、様々な気づきや感想が述べられた。



▲スロープを使い2階へ

児童デイサービス・スイミー
母の日プレゼント

5月8日(月)から12日(金)の期間、児童デイサービス・スイミーで、母の日プレゼント制作が行われ、児童たちがカーネーションの貼り絵作りに取り組んだ。

「お母さんがハート形に作ってくれる卵焼きが好き」と話す金城翔愛さんは、日頃の感謝の思いをメッセージに込め、大好きなお母さんへプレゼントした。



▶お母さんいつもありがとう

●玉城農園の玉城夫妻より(兼次区)より、トマトの寄贈があり、村内の施設等へお分けして活用させていただきます。



▲いつも寄贈ありがとうございます

**村内のケアマネへ協力依頼
計画作成推進に向け**

5月18日(木)、村社協で開かれた「今帰仁村介護支援専門員連絡会」に社協の生活支援コーディネーターが出席し、村内のケアマネージャーへ事業の協力依頼を行った。

これは、村社協が令

今帰仁村の災害時避難行動要支援者名簿登載数は246名

和3年度から村役場より委託を受け、取り組まれている災害時避難行動要支援者の個別避難計画作成支援を、より効果的に進めるためのもの。避難行動要支援者の個別避難計画作成は、令和3年5月に災害対策基本法が一部改正され、市町村の努力義務となっており、本村の対象のほとんどが、要介護認定を受けた高齢者となっている。



▲連絡会にて説明を行う様子

上野加威生活支援コーディネーターは、「今帰仁村では住民に対し、平成24年に避難行動要支援者名簿への登録が周知され、申請方式で登載が行われている。現在、個別避難計画作成に向け、区長や民生委員と対象者宅を訪問しているが、対象者本人が登録について憶えていない。また、見ず知らずの職員が訪ねることで不信感を持たれるなどの課題がある。要介護者を担当するケアマネージャーの皆様は協働してもらえれば非常に助かる」と協力を呼びかけた。

災害時避難行動要支援者個別避難計画作成支援を通じて

個別避難計画とは、避難行動要支援者ごとに作成する避難支援のための計画で、誰が支援するか、どこに避難するか、避難する時にどのような配慮が必要かなど、あらかじめ記載したものです。

村社協は、なきじん結ネットワーク事業の一環で、自助「自分の身は自分で守る」、共助「自分たちの地域は自分たちで守る」の力を高めることを推進しながら、行政や関係機関、地域の支援者等と協同して「避難行動要支援者」の「個別避難計画」作成を支援していきます。計画づくりに取り組むことは、避難行動要支援者の命を守るだけでなく、計画づくりを通じて、地域のつながりの再構築や、平素から困っている時には助け合える地域づくりにつながっていきます。計画作成だけが目的ではなく、災害により地域住民が取り残されることのないよう、平時から支え合える地域づくりや人づくりを進めておくことが必要です。

村社協では、各字での「なきじん見守り隊」や「ミニデイサービス」設置はじめ、住民主体の地域づくりに取り組んでいます。

これからも、地域の皆様のご支援ご協力をお願いします。



お問い合わせ：村社協 ☎ 56-4742 地域支援課



この社協だよりは赤い羽根共同募金と社協会費で作成されています。

